

公民科（公共）学習指導案

岡山県立岡山一宮高等学校 普通科理系 2年6組
 令和5年11月9日（木）第6校時 合併教室 指導者 赤畠 資佳

1 単元名
 私たちの職業生活「働くということ」 - 2035年の社会で活躍するためには-

2 単元の目標

自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、幸福、正義、公正などに着目して、他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

- ・職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり(国際社会における貧困や格差の問題を含む。)などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。
- ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる。
- ・幸福、正義、公正などに着目して、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。
- ・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり(国際社会における貧困や格差の問題を含む。)などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解している。</p> <p>・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。</p>	<p>・幸福、正義、公正などに着目して、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。</p>	<p>・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>

4 指導上の立場

○単元観

この単元は、働くことの意義、産業社会の発達と職業の変化、労働市場の役割、職業選択とこれからのキャリア形成に焦点を当てており、現代社会の抱える労働者の課題とよりよく生きるために必要なことについて考察することができる単元である。

現代社会の抱える労働者の課題の例として、働き過ぎによるストレスやワークライフバランスの喪失、不確実な雇用状況、そして経済的な不平等が挙げられる。急速に変化する労働市場に対応し、自身のキャリアを形成するためには、柔軟性やスキルの継続的な向上が不可欠である。同時に、よりよく生きるためには、自己認識と目標設定が重要である。この単元を通じて、働くことの意義を考え、社会的な使命感や幸福を見つける力を養うとともに、他者の考えを取り入れながら、自己の

価値観を深化させ、自分のキャリアと生き方をより意識的に選択させたい。

○生徒観

本クラスは理系選択である。全ての生徒が進学を希望している。受験科目として公共を選択する予定の生徒はいないが、公共的な空間に参画する自己として、公共空間における在り方と生き方、民主的な社会を構築するための基本原理について学んできた。その過程で、より良い社会形成に貢献するために必要な力として本校で育てる資質能力「i コンピテンシー」である情報分析活用力、論理的思考力、コミュニケーション力、自律的に行動する力や他者と協働し課題解決に向かう力などを習得してきた。

今後は、これらの力をさらに進展させつつ、より主体的に行動する力や社会課題の解決に向けて、個人としての責任を果たそうとする姿勢を養いたい。そのために、自己主導的な行動力やリーダーシップ、倫理的な判断力を養い、共同体としての目標に向かって効果的に行動する個人としての素養を身に付けたい。

○指導観

現代社会における労働と社会参加の重要性を理解し、自己成長と社会貢献のためのスキルと意識を養うために、現代社会における労働と個人の役割に焦点を当てて取り扱う。単元観と生徒観をつなぐ手立てとして、生徒たちが自己主導的に学び、対話し、問題解決能力を発展させられるようサポートする。また、複数のデータ読み取りを行い、働くことの意義や労働市場の変化について経済的な側面だけでなく、社会的、心理的な側面にも着目させ議論させる。その過程で、自己認識と目標設定の重要性について学ばせ、自己の価値観や目標を明確にするためにディスカッションを行い、事故主導的な力や倫理的な判断力を他者と協働するなかで身に付けさせたい。自己評価と他者評価による自己認識を高められるようフィードバックを行う。

5 指導と評価の計画（全3時間）

(1) 内容のまとまりの指導計画

第一次「働くということ、多様な職業選択」について	2時間
第二次「労働者の権利」「現代の雇用・労働問題」	2時間

(2) 第一次の指導計画

時	ねらい・学習活動 ◇学習活動の概要 問(主発問 留) 指導上の留意点	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
第一次 2時間	【ねらい】単元を貫く問い「なぜ労働の意義と職業は変化するのか。多様化するキャリア選択が労働契約や現代の労働問題にどう影響するかを、実際の職業と関連づけながら探究しよう」について、対話的な学びをベースに今後のキャリア形成の重要性も含めて考えさせる。その際に、現代社会での働く意義や技術進化が職業に及ぼす変化を理解させるとともに、労働市場やキャリア選択の多様性にも注目させ、労働環境に課題解決にむけた考察を深める。				
	【第一次のねらい】職業の変化と技術進化がどのように影響を与えるかを探究させる。現実の労働状況とキャリア形成のポイントについて、将来への適応や選択を意識し理解を深める。職業選択の多様性とキャリア形成の課題を実際の労働現場と関連して理解させ、多様な選択肢と将来のキャリア形成に焦点を当て、高校生活で身につけておく資質や能力について考察させる。				
	【第一次の問い】 2035年の社会で活躍するために、今身につけておかないといけない力は何だろうか。				

第二次 1時間	<p>◇学習活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「何のために働くのか」事前のアンケート結果を共有する。 ・働くこと（職業労働）の意義について、産業社会の発達と職業の変化について触れながら考察し表現する。 ・労働市場の役割の変化について需要と供給の関係を理解した上で考察する。 ・職業を選ぶポイントや多様化するキャリア選択について教科書の内容をもとに考えを深める。 ・これからのキャリア形成の課題解決に向けて、AIの深化などをはじめとする技術革新からなどの視点を含めて、高校生活で身につけておきたい資質や能力について考察する。 <p>留）働くことの意義や職業を選ぶポイントに正解はない。それぞれの考えを尊重しながら考察を深めるよう注意する。</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ● ●自身が考えた回答と他者の回答をもとに、考えを広げ後の協議の際に新たな見解を述べている。（観察） ● ●幸福、正義、公正などに着目して、自立した主体として、合意形成を通じて協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。（ディスカッション） ● ●労働市場の変化を、現代の諸課題も含めて考察しようとしている。（観察） <p>○職業選択に関わる現実社会の事柄や課題を基に教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。（記述）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ●キャリア形成の課題について、自分の興味やスキルに基づき、将来のキャリアにも触れながら主体的に追究している。（観察・記述・相互評価）
	<p>【第二次のねらい】</p> <p>資本主義下での労働契約や労働法、雇用環境の変遷を職業と労働の現実と結びつけて理解する。また、職業選択を自己の課題と捉え、労働や雇用にまつわる問題に対して考察を深める。現代の職業特性や労働に関する事柄を把握し、将来の選択や社会参加に向けての洞察を深められるように知識・理解を身につける。</p>		
	<p>【第二次の問い】</p> <p>労働問題の諸課題をどのように解決していくことができるだろうか。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアワークで、学生たちが労働や社会問題について深く考察し、教科書や資料集を根拠として解決策を模索する。 ・将来のキャリア形成や社会的貢献に向けたアクションプランにつなげられるよう、現代社会が抱える労働関連の諸課題について自己の考えをまとめる。 <p>留）根拠に基づいて自身の考えを整理するよう、教科書や図説を丁寧に読みこませる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ● ●現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。（観察）（記述） ● ●よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決するために、自身のキャリア形成に向け働くことについて考察を深めようとしている。（観察）

6 本時案（第二次 第2時）

(1) 本時の目標

- 知識・技能：労働市場の役割の変化（需要と供給）について適切に理解できる。
- 思考・判断・表現：働くこと（職業労働）の意義について、産業社会の発達と職業の変化について触れながら考察し表現することができる。
- 主体的に学習に取り組む態度：キャリア形成の課題について、自分の興味やスキルに基づき将来のキャリアにも触れながら主体的に追究している。

(2) 展開

学習活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
1 本時の目標を確認する。	本時のねらい伝える。	
<p>目標（めあて） 2035年の社会で活躍をするために、いま身につける力について探究しよう</p> <p>I 情報分析活用力 II 論理的思考力 III コミュニケーション力</p> <p>IV 自立的に行動する力 V 垣根を越える力</p>		
2 前時の振り返りをする。	前時の振り返りフォームの内容を共有する。	
3 「働くこと」の定義を考える。	教科横断的視点から ・論理国語の教材で取り扱われている「働くこと」の内容を紹介する。 ・家庭基礎の教材で取り扱われている「働くこと」の内容を振り返らせる。	主体的に学習に取り組む態度（観察）
4 「働くこと」について身近な問題から国際的な問題まで幅広く存在していることを考える。	デジタルコンテンツで労働問題の紹介を行う。	幸福、正義、公正などに着目して、自立した主体として、合意形成を通じて協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。（記述）
5 教科書p148「働くことの意義」を読む。	職業に就き、働くことの意義について三つの要素を理解させ、職業を通じて得られる経験は学校生活でも同じように得られていることを気づかせる。	
6 教科書p148「産業社会の発達と職業」を読む。	社会の複雑化にともなって、社会的分業が進み、仕事の高度化と専門分化が進行して多種多様な職業が生み出されていることを気づかせる。	
7 教科書p148「労働市場とは」を読む。	経済分野で学んだ、市場の需要供給の関係は、労働市場にも当てはまることを理解させ、現代の労働市場における課題に気づかせる。	労働市場の変化を、現代の諸課題も含めて考察しようとしている。（観察）
8 将来の職業選択に向けて逆算して考えていく。	小学生のころ、つきたかった職業アンケートを確認させる。	
9 教科書p150「職業を選ぶポイント」を読む。	高校生のうちに準備を進めていきたいこと、職業選択のポイントを理解させる。	

<p>10 教科書p150「多様化するキャリア選択」を読む。</p>	<p>従来の日本の雇用形態は過去のものになりつつあるということを理解させる。 ※株式会社JTB岡山支店 教育ソリューション事業担当 周藤紘子氏から事例を紹介してもらう。</p>	<p>職業選択に関わる現実社会の事柄や課題を基に教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。(記述)</p>
<p>11 探究活動 フォームに回答する。(企業が求める人材の資質能力アンケート)</p>	<p>自分が考える企業が必要としている資質能力はこれだ(フォーム)に答えさせる。 ※内容は共有しない</p>	
<p>12 ペアになり、選んだ項目とその理由について共有する。</p>	<p>ペアで選択した項目とその理由について共有させる。</p>	
<p>13 グループになり上位4項目だと思うものを選択する。</p>	<p>グループ活動について流れと評価方法を示す。 グループして上位4項目だと思うものを選択させ、記入させる。</p>	
<p>14 厚生労働省資料「働き方の未来2035」～一人ひとりが輝くために～から2035年の働き方の予想する。</p>	<p>探究の過程01：テーマ・課題→仮説の設定 探究の過程05：考察・推論 2035年の働き方はこうなっているだろうという仮説を立てさせ、青枠に記入させる。</p>	<p>思考判断表現 主体的に学習に取り組む態度 (観察)</p>
<p>15 内閣府資料「人の活躍のための職業能力の育成」から社会人基礎力として分類ごとに最も必要だと思うものを選択し記入する。</p>	<p>探究の過程05：考察・推論 内閣府資料「人の活躍のための職業能力の育成」から社会人基礎力として分類ごとに最も必要だと思うものを選択し記入する。</p>	<p>思考判断表現 主体的に学習に取り組む態度 (観察)</p>
<p>16 13の4項目について、プレゼンテーションをして、4項目から一つに選択する。</p>	<p>探究の過程06：発表 4項目をプレゼン担当者を決めて、グループでプレゼンテーションをさせる。一つに決定させ、用紙に記入させる。</p>	<p>思考判断表現 主体的に学習に取り組む態度 (観察)</p>
<p>17 2035年の社会で活躍をするためになぜ4つの項目を選んだのか。それらを身につけるために学校生活で取り組むべきことは何か話し合う。</p>	<p>探究の過程04：結果の処理・モデル化 グループ協議の後、グループ内発表→全体発表となることを伝え、発表の準備をさせる。</p>	<p>キャリア形成の課題について、自分の興味やスキルに基づき、将来のキャリアにも触れながら主体的に追究している。</p>
<p>18 グループ発表を行う。</p>	<p>探究の過程06：発表</p>	<p>(観察・記述・相互評価)</p>
<p>19 グループ評価と他者評価を行う。</p>	<p>グループ評価と他者評価をさせる。</p>	

<p>まとめ ① 職業選択の価値観は変化するもの</p> <p>② 社会が求める力も多様化し変化をするもの</p> <p>③ 高校生活は職業生活で経験することが多く経験できること</p> <p>④ 自分自身のキャリア選択を主体的に行えるように準備をしていくこと</p> <p>等、重要だと考えられることについて伝える。</p>		

◎「おおむね満足できる」状況（B）と判断する生徒の姿の例

主体的に、ペアやグループのメンバーとコミュニケーションをとることができる。
 本時の内容理解を通じて、将来のキャリア選択に向けてより主体的に学校生活を送ることができる。

- (3) 準備物
 教材一式（筆記用具 教科書 図説 クロムブック）